

## 会 議 録

<b>会議名</b> (付属機関等名)		令和4年度 第4回 川西市総合計画審議会	
<b>事務局(担当課)</b>		総合政策部政策創造課	
<b>開催日時</b>		令和5年2月20日(月) 午後7時から	
<b>開催場所</b>		川西市役所4階 庁議室	
<b>出席者</b>	<b>委員</b>	上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、中野 雅文、 新川 達郎、松浦 龍基、水野 優子、山本 利映 (敬称略)	
	<b>その他</b>		
	<b>事務局</b>	越田市長、石田総合政策部長、飯田総合政策部副部長、 野田政策創造課長 他課員3名	
<b>傍聴の可否</b>		可	<b>傍聴者数</b>
		9名	
<b>傍聴不可・一部不可の場合、その理由</b>			
<b>会議次第</b>		次ページに記載	
<b>会議結果</b>		審議経過のとおり	

# 令和4年度 第4回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和5年2月20日(月曜日)  
午後7時～

## 1. 開会

## 2. 報告事項

- (1) 総合計画策定過程における、個別の取り組みにかかる進捗状況 【資料1】

## 3. 議事

- (1) 第6次川西市総合計画の体系について 【資料2】

- (2) その他

### 【参考資料】

- ・第6次川西市総合計画 全体の構成案 【資料2 参考資料】

## 審 議 経 過

【開始時間：午後7時08分】

### 1. 開会

**新川会長（以下、会長）** お時間がまいりましたので、令和4年度第4回川西市総合計画審議会を開催いたします。皆様におかれましては、ご多忙にもかかわらずご参加いただき誠にありがとうございます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

今年度も本日の会議で最後となりました。ここで大きな枠組みをある程度固めて、次年度、計画の具体的な中身について協議していくことになろうかと思ひます。本日はまちの理想の姿をみんなで語り合う、そんな会にできればと思ひています。また、総合計画の基本構想や主要な目標等についても議論いたしますので、関連してお話しいただければと思ひます。

それでは早速でございますけれども、市長様からご挨拶をお願いいたします。

**市長** 本日は、今年度最後の総合計画審議会になりますが、令和5年になって初めて皆さんとお顔を合わせますので、どうか今年もよろしくお願いたします。具体的な部分は事務局からご説明したいと思ひますが、川西市議会の第1回定例会の時期となつてしまひて、来年度の予算も編成させていただきました。大きなトピックとして、この総合計画でも申し上げておりますが、「子どもを中心に」「子どもが幸せになる」ということを大きなキーワードとして、政策の策定や予算について重点的に配分しています。

具体的には、中学生に対してできるだけ少人数での学習環境を整えたいと考へ、数学や英語を中心に、20人以下のクラス編成ができるよう教員を独自に配置するための予算を組んでいまひます。また、これはかわにしMeeting等でもたくさんご意見をいただきましたが、不登校児童生徒が非常に多くなつていひる状況の中で、子どもたちにしっかりと学びの場所や居場所を提供するために、現在中学校で進めていひる校内フリースクールについて、全小学校にまで拡大していひる予定です。さらには、これは非常に大きな予算も伴うことですから我々としても非常に悩んだ部分であったのですが、子ども医療費の助成に関しても、現在中学校3年生までが所得制限付きで対象になつていたところ、所得制限を外し、対象を高校3年生の入院費まで拡大するといひる取り組みを予定しています。

その他、多様な事業を進めていまひますが、かなり大きな部分として総合計画、そして総合計画に合わせた各種個別計画で盛り込んでいひくといひることから、今まで私たちが温めてきたものが全部出てきたといひることではないですが、大きな一歩を踏み出した予算ではないかなと思ひます。

一方で、財政状況は令和2～4年と改善の傾向を見せていたのですが、令和5年度はかなり厳しい状況になつていまひます。特に光熱水費等の上昇分は、行政改革や財政歳出の見直しで対応することは難しいと考へていまひます。一時的に費用がかかるものは、財政運営の基本からすると、積み立てていた基金等を活用して平準化することが原理原則でありますから、来年度は5億円の財政基金を取り崩す予算編成になつていまひます。令和4年は財政基金を取り崩さない形でしたので、私としてはそれを継続したい思ひもありましたが、市民生活に多大な影響を与えることはできないので、財政基金を取り崩す形に対応していひこうと考へていまひます。

一方で、子どもの政策を重点化していくということは、令和2年度以降の基金を一部活用すれば、当面の間継続することはできるだろうと思いますが、やはり毎年の財政収支を見ると、現時点で持続可能な状況にはなっておりません。ですので、この総合計画をつくっていくのにあわせて、上村委員にもまた別でご協力をいただくこととなりますが、行政改革の取り組みというものをパッケージで示していく必要があるだろうと考えています。

総合計画で大きな夢を語りながら、一方でしっかりと優先順位をつけていき、行財政的な裏づけをもった制度・政策をつくっていくということを、今年度の一つの大きな柱にしていきたいと思っています。

来年度は「新時代創造プラン(仮称)」という形で、今までの行政改革がどちらかというところ財政収支均衡を目的としたものに映ってしまったがために、何とかゼロに戻すためにお金をつくるといったイメージがあったものを、より前向きに、子どもたちの幸せのためにお金を使いたいから、税金の使い道を見直していくというように変えていきたいというのが、これから議会に臨むにあたっての私の思いということであります。具体的な施政方針、また予算の概要はホームページ等にもアップ( )しておりますので、皆さん方にもご覧いただければと思います。

参考 令和5年度施政方針

[https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/shiseijoho/1007418/shisei\\_hoshin/index.html](https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/shiseijoho/1007418/shisei_hoshin/index.html)

参考 令和5年度予算の概要

<https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/shiseijoho/1008858/zaisei/1008284/1016966.html>

また、今年の1月末から3月にかけて「かわにしミライ会議」を開催し、無作為抽出でお越しいただいた市民の皆さんが、市民同士でワークショップをしながら、川西の未来について多様なご意見をいただくということを実施しております。皆さんが自由に参加いただける形にすると、どうしても積極的な方が中心になりがちのところ、無作為抽出で参加のご案内をすることによって、より幅広く、きっかけさえあれば川西への思いを伝えたいという、そういった方たちをしっかりと掘り起こしていく取り組みにもなっているのではないかなと思います。

ただ、私たち自身が改めて反省をするというか難しさを感じたのが、2,000人に郵送して160人ほどの参加規模、つまり約8%の方に参加意向を示していただきましたが、パブリックコメントの制度を知っているか尋ねると10人に満たないぐらいでしたし、パブリックコメントで実際に意見したことがある方は、数人しかおられない状況でした。

また、全小学校地域で昨年やった「市長と語る かわにしMeeting」は、私が中心となって回ったものですが、これを知っている方は大体2割ぐらいしかおられませんでした。

これだけ広報を一生懸命頑張っても、市民の皆さんの意見を聞こうという取り組みをするにもかかわらず、取り組んでいること自体を伝えきれてない、伝わっていないということに、改めて「市民の声を聞く、市民とつくっていく」ことの難しさを感じた次第です。

そういった状況も含め、私としてはここにいらっしゃる皆さまの専門的な知見からいただくご意見、市民の皆さんのご意見、議会からのご意見、そして私たち行政としての思い、そういったものをうまくミックスさせていく形で、これからのまちづくりの在り方をしっかりと描いていきたいと思っています。

今日は「このような枠組みでいきたい」ということをしっかりと提示し、全体の位置づけとしては、4月以降に具体的な計画に盛り込んでいくための最終的な土台づくりということでもあります。本日もしっかりとここでご議論・ご意見をいただければと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

会長 ありがとうございます。

お話しいただきましたように、新年度の予算は「子どもたちを中心に」ということでご提案いただいているようです。総合計画でも恐らく子どもたちを中心に考えていかないといけないのですが、それも含めた基本的な考え方や枠組みを、皆さんとしっかりと議論してつくっていただければと思います。

本日は、議事に移ります前に策定過程についてのご報告があるということですので、まずはそちらについて事務局からよろしくお願いたします。

## 2. 報告事項

### 事務局 (1) 総合計画策定過程における、個別の取り組みにかかる進捗状況 【資料1】

それでは「総合計画策定過程における個別の取組状況に係る進捗状況」につきまして、資料に沿ってご報告いたします。2ページの目次に示しておりますが、本日は主に4点の取り組みについてご紹介したいと思っております。

資料3ページをご覧ください。図の から につきましては、現在取り組んでいるものや、最近実施したものになります。また、 の「市長と語る かわにしMeeting」は去年の夏ごろに実施したものですけれども、その後、進めている集計や分析作業の一部を簡単にご紹介したいと思います。

#### ・「かわにしミライ会議」（資料4ページ～）

まず、「かわにしミライ会議」についてです。こちらは前回の審議会で予告していた通り、1月29日、2月4日と既に2回実施しております。3月5日が最終日となります。先ほど市長からも説明がありましたが、無作為に選んだ市民の方に2,000名に招待状をお送りし、その中で希望した方にお越しいただいている点に特徴があります。第1回、2回とも100名前後の参加があり、16歳から80歳代まで幅広い年齢の方がおられた中、特に30～40歳代の割合が多い傾向にありました。

参加者の感想として、これまでこのような場に参加したことがないという方が大半でした。「気軽に参加してもらえるものですよ」というメッセージをチラシ等に込めたので、そういった意図が伝わったのかなと思っております。

続いて資料5ページ6ページをご覧ください。通常、こういった会議では開始早々に行政から固い制度説明を始めてしまうことが多いのですが、今回あえてそういう流れをやめまして、この取り組みに対する市の思いであるとか、今後、まちづくりにどう繋がっていくかということをイラストを交えながらお伝えしました。

最初にアイスブレイクを入れて発言しやすい雰囲気を作った上で、自分たちが暮らす川西の

未来を考え、それを実現するための方向性やアイデアについて、市民の皆さん同士で話し合っ  
ていただきました。

今は会の途中ということもありまして、議論の過程や結果については集計・分析中ですの  
で、今日は会場の写真等で雰囲気をお伝えできればと思います（7、8ページ）。

・my groove（マイグルーヴ）かわにし（資料9ページ～）

先ほど紹介した「かわにしミライ会議」や「市長と語るかわにしMeeting」といったいわゆる  
対面の場については、いろいろな事情で参加できない方がおられます。そういった方たちで  
も、まちづくりの取り組みを知ったり、時間や場所を選ばずに気軽に発言、意見交換をできる  
場として立ち上げた特設サイトで、名称を「my groove（マイグルーヴ）かわにし」といいま  
す。2月に立ち上げたばかりですので事務局も手探りのところがありますが、少しずつ意見も  
書き込まれています。そこで、寄せられたコメントを資料10ページに一部抜粋しております。  
上の2つは20歳代の方のようですけれども、いずれも地域の関わり方についてご自身の考えや  
思いを書かれています。一番下のコメントは、これは行政に向けてではなく、他の市民に対す  
る問いかけがされている、というところが特徴かと思えます。この、「市民同士で対話ができ  
る」という点がこのサイトの目的の一つでもありますので、かわにしミライ会議の記事もこま  
めに更新するなど、この大切な流れを絶やささないよう工夫を図っていきたくと考えています。

・転出者アンケート（資料11ページ～）

本市では令和4年12月に、転出者アンケートを実施しました。総合計画の策定にあたり、  
「川西市に住んでいてよかった点」などを、改めていろいろな視点で把握したいと考えたから  
です。

資料12ページをご覧ください。2,000名にアンケートを送ったところ、およそ28%に当たる  
558名から回答がありました。転出者の視点では、主に「自然環境」や「交通の利便性」、「治  
安」などを「川西のよかったところ」として挙げてくださった方が多いようです。また、この  
下の図はあくまで参考程度になりますが、令和3年度には「市民意識調査」を行い、その調査  
でも概ねこの3点は「川西市に住み続けたい理由」として同じく上位に挙がっておりました。  
その他に出た自由記述は14ページに抜粋して載せておりますが、一つ一つ触れるのは割愛した  
いと思います。一部は「かわにしミライ会議」の配付資料にも盛り込み、市民の皆さんが川西  
市のいいところを考えるきっかけにさせていただきました。

・市長と語る かわにしMeeting（資料15ページ～）

最後の「市長と語る かわにしMeeting」につきましては、昨年既に報告している取り組みの  
ため詳細は省きますが、この会では、全ての会場で「最近あなたが笑顔になった出来事」を参  
加者に尋ねました。これらについて、頻出度合いの高い単語等を調べてまとめたものが16ペ  
ージです。ここに挙がってるキーワードなども、この後ご審議いただく「まちの未来像」の材料  
になってこようかと思っておりますので、最後に簡単ですがご紹介しました。

以上が、事務局からの報告となります。

会長 ご説明ありがとうございました。

これまでの「かわにしミライ会議」や「my grooveかわにし」でのご意見、転出者アンケートの回答、「市長と語る かわにしMeeting」でのキーワードをご紹介いただきました。

ご紹介いただいたものは、これからの議論でも触れていただければと思いますので、参考にしてください。

それでは、本日は大きな議事がありますので、そちらへ進めてまいります。まずは、事務局からご説明をお願いいたします。

### 3. 議事

#### 事務局 (1) 第6次川西市総合計画の体系について 【資料2】

それでは、「第6次総合計画の体系について」ご説明いたします。

2ページの目次にお示しする通り、本日予定している議事の要点は、主に3つあります。この後、資料に沿って順にご説明してまいります。

#### ・【基本構想】まちの未来像

まず、資料3ページをご覧ください。こちらは、以前から取り上げております基本構想、基本計画、そして実施計画のそれぞれの役割を示した図になります。議事の1つは、この基本構想の一番上、「まちの未来像」の部分になります。

資料4ページをご覧ください。「まちの未来像」については、これまでの取り組み、あるいは今進めている「かわにしミライ会議」等から固めていく、ということを前回の審議会でも伝えておりました。現時点で、川西市らしさを象徴するフレーズ部分はともかくとして、おおよその方向性については、これまでの取り組みを経て一定見えてきたのではないかと考えております。そこで、事務局で考えた案を4ページ右側に示しております。

本日1点目の議事としましては、この方向性の部分が、「みんなの思い」から大きく外れていないだろうか、というところです。

また、川西らしさを象徴するフレーズの部分につきましても、様々なご意見を今日いただければと考えております。

#### ・【基本構想】4つの基本姿勢

資料5ページをご覧ください。まちづくりを進める上で大切にしたいと考える4つの基本姿勢につきまして、こちら内容も大きく変えるものではありませんが、文言のバランス等を見ながら、(1)と(3)の修正について検討しているところです。修正後の案は7ページにお示ししています。元の意味と大きく変わっていないかなど、ご確認いただきたいというのが本日の議事の2点目となります。

#### ・【基本計画】分野別の目標

資料8ページをご覧ください。ここには以前、「分野別未来像」として主に6つの分類を設

けておりました。これは、抽象度の高い「まちの未来像」を日常生活のレベルに落とし具体化したものであると同時に、総合計画が全ての行政分野を網羅する計画である、という性質がありますので、細かな施策分野を取りまとめるという役割も持っております。

これまでの案では、「4つの基本姿勢」と「分野別未来像」の書きぶりが似ており混同しやすいなどのご指摘もいただいております、確かに書き込みが多いという印象でしたので、今回資料9ページのように簡素化し、まとめ直しております。こちらにつきましても、変更案についてのご意見等をいただければと思います。

また、資料の10ページでは各施策と「分野別の目標」との関連性を、クロス表の形であらわしております。イメージとしては、それぞれの施策が少なくとも1つ以上、何らかの分野別目標の貢献に寄与しており、特に本市が優先的に取り組む重点プロジェクトについては、施策というくくりを越え、横断的な視点から未来像の実現に向けて底上げしていく、というものです。

11ページ以降につきましては、施策ごとのさらに細かいイメージや、それにひもづく各個別の行政計画などを参考に載せておりますので、割愛します。

事務局からの説明は以上です。

会長 ご説明ありがとうございました。

それではここまでのところで、委員の皆様方から、ご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。

上村委員、どうぞお願いいたします。

**上村委員** まず1点目は、「子どもが」ではなくて「子どもから」にしようとしている点に、どのような思いがベースにあるのかということをもう少し詳しく聞きたいです。

2点目ですが、【資料2】8、9ページの「分野別の目標」部分に対して施策分野の矢印が上向きについているのですが、これは下向きにつけた方がいいのではないかと思います。というのは、計画は上からつくっていくイメージを持っていないと、今ある施策を組み合わせる目標をつくり上げる、要は今の施策を肯定してしまうことになるので、やはりスクラップすることで新しい施策を生み出す、ということを考えると、「上からつくる」というイメージで下向きの矢印にした方がいいのかなと思いました。以上です。

会長 ありがとうございました。

4つの基本姿勢の記載について「子どもが」を「子どもから」に変更する理由、それから計画の体系として「上からつくる」「下からつくる」を矢印で表していますが、その整理について事務局からご説明をお願いいたします。

#### **事務局**

まず2点目にいただきましたご指摘は確かにおっしゃる通りで、この資料を作成した際は細かな行政施策がいずれかの「分野別の目標」に属していますよ、という役割について見せ方を意識していたのですが、全体を通して見たときには確かに「まちの未来像」から始まって下へ



おりていくイメージですので、ご指摘の通り修正したいと思います。

**事務局（総合政策部長 石田）**

1点目にご指摘いただいている「まず、子どもが幸せになります」については、前回もご議論いただいたところで、その後、事務局内でも見直しが必要だと考え検討してきたところです。

そのような中で、今日の「子どもから」という形はまだ案の段階でございまして、実はまだ事務局の中でも「これ」と決め切れておりません。申し訳ありません。「まず、子ども」が「」のほうが、我々のメッセージが強調されて良いのではないかと。ただ一方で、子ども以外の世代が排除されてしまう響きが出るのではないかと、などの危惧から、本日のような案を資料としてお出ししておりますが、そこもあわせて、皆さまから「やはり「子どもが」が良いのでは」とか、もちろん他のアイデアやご意見もいただけますとありがたいです。よろしくお願いたします。

**上村委員** ありがとうございます。「まず」がついているので、「から」入れる・入れないはあまり変わらないような気がしたのですが、ただ皆さんの思いはよくわかりました。

**会長** ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。  
**神谷委員**お願いたします。

**神谷委員** 個人的には、「子どもから」はすごく良いなと思っています。

私事ではありますが、子どもが3名います。真ん中の長男が4月から中学生なのですが、小学校6年生から1年間学校に行っていないで「中学校も行かない」と言っています。ただ、プログラミングとかパソコンとかは僕が得意なものあって「パパ教えて」って。

この「教える」とかは既に学校教育としてあって、僕はそういうことのために税金を払ってはいるけれど、やっぱり子どもがそういう状態になったときに、仕事もしないといけない中で、親として子どものためにどれだけ時間をつくれるのかと。子どもがいきいきと学校に行って友達と過ごし、いろいろなことを学んで健やかに育っていくことで、親も親としての権利というか、自分の人生を生きることもできますが、そうではない状態、不登校とか引きこもりになってくると、親の社会参加はとても難しくなります。

そういった意味では、やはり子どもが幸せになることで、親も親らしく、自分のことやいろいろなことに時間が使えるようになるという視点で考えると、「まずは子どもから」はすごく良い表現だなと感じました。

【資料2】10ページについてですが、分野別の目標が全部似たり寄ったりで、少し抽象度合いが高い気がしました。例えば子どもや健康、福祉というような言葉を入れたほうが、どこを見たら自分の欲しい情報があるのかというイメージを持ちやすいかなと思います。以上です。

**会長** ありがとうございます。

子どもたちから未来を広げていくイメージは、「子どもが」「子どもから」のどちらがより強いのかを考える必要はあると思いますが、意図していることとしては、それほど大きな違いはないかと思います。

ただ、この表現は、計画を策定する上で鍵になるものの一つですので、是非しっかりとご議論いただければと思います。よろしくをお願いします。

それから、分野別目標の表記についても、事務局案が良いのかも含めて皆さまからご意見をいただければと思います。

水野委員お願いいたします。

**水野委員** 先ほど【資料2】8、9ページの中で、「分野別の目標」が「まちの未来像」の具体化、そして、基本計画にある施策分野の整理分類ということで設定したというご説明があったかと思います。上村委員の「矢印が上から下ではないか」というお話しは私もそうだなと思いつながりお聞きしていました。

また、「まちの未来像」のフレーズはまだ決まっていないものの、今回そこに至る方向性ということで、具体的かつ想いが詰まった言葉で示されているのかなと思います。そういった点から見ると、この「まちの未来像」の方向性と先ほどの「分野別の目標とを、もう少し接続よくできないかなと思いました。「まちの未来像」はこれまでの議論を基に、非常に温度感のある言葉で示されているんですけども、それを「分野別の目標」として具体化したところに、少しい離があるような気がしていて。うまく表現できないのですが、そのあたりの繋がりがうまく示せるとさらに市民の方に伝わるのではないかと思いました。

**会長** ありがとうございます。

この分野別の目標は、立て方が難しいと思います。場合によっては、「4つの基本姿勢」から基本計画の施策分野にそのまま体系をおろしても問題はないと思いますが、この点についても皆さんとご議論できればと思います。

そのほか、いかがですか。特にご発言がないようであれば、この計画の体系に沿って、冊子のイメージも含めたご説明に進んでいきたいと思います。

(「異議なし」の声あり。)

それでは、事務局からご説明をお願いいたします。

**事務局** **第6次川西市総合計画 全体の構成案** **【資料2 参考資料】**

今回、【資料2】の参考資料としまして、「第6次川西市総合計画全体の構成案」をお示ししております。これまでの審議を経て形になったところも出てきましたので、それらを踏まえて現時点での構成案をこちらにまとめました。説明するポイントは絞りつつ、全体のイメージをこちらで共有できればと思っております。

資料4ページをご覧ください。まず、総合計画そのものの説明よりも先に「川西がこれからどんなまちを目指すのか。どんな思いで取り組むのか」というところを、冒頭で共有したいと考えています。

続いて、少し飛びますが資料9ページをご覧ください。ここからは基本計画にあたる部分

で、今後8年間で私たちが取り組むことを示したいと思っております。まずは川西市が重点的に取り組む内容、いわゆる重点プロジェクトを記載した後、行政分野全体を網羅していく形で、分野別の目標ごとに整理し記載したいと思っております。資料14・15ページはその一例を示しています。

資料15ページには参考として、第5次総合計画と第6次総合計画の「子育て」に関する記載イメージを並べております。第5次総合計画では、各分野の個別計画から施策の詳細等を抜粋し再構成する形で詳しく載せておりますが、総合計画とそれぞれの分野に特化した個別計画の更新のタイミングが必ずしも一致するものではないため、策定後に内容が古くなってしまおうという課題もありました。そこで、第6次総合計画では、各施策の要点を示し詳細は対応する最新の個別計画を参照してもらう仕組み、という点を念頭に置いて構成していきたいと考えているところです。

16ページより後は、総合計画そのものの説明や策定プロセス、資料集等になります。

ここまで、簡単な説明で大変恐縮ですが、先ほど【資料2】で触れた議事の3点のほか、今回の計画のキーワードである「みんなでづくり、みんなで達成する計画」としていくためのご意見等をまたいただければ幸いです。

**会長** ありがとうございます。

ご説明いただきましたように、総合計画としてはまず基本構想があり、それに基づいて基本計画が立てられています。現時点で考えられている体系としては、基本構想に「まちの未来像」と「4つの基本姿勢」が基本的な考え方として設定されており、基本計画はその考え方を受け、分野別の目標を5つの柱として設定し、その目標に施策群が繋がっています。

また、第6次総合計画では、各分野別の施策について、現行の第5次総合計画のような詳細な記載は行わない想定だと伺っています。

本日の審議会では、基本構想と基本計画の枠組みや考え方、盛り込むべき文言・文章をどのようにすると一番「川西市らしい」のか、そして、未来の川西市民、特に8年後の市民がどのような暮らしをされているのかを考え、その人たちのために何をしていくべきなのかを考えていただければと思っています。「何を実現していけば、その人たちが思うありがたい姿に近づいていけるのか」。そんなことも併せて考えていただければと思います。

ここからは自由にご発言いただきたいと思いますが、本日議論をしていただきたいことが主に3点あると事務局から伺っています。

1つは「まちの未来像」について。言葉としては大分できてきているかと思いますが、これだ、というようなキーワードも欲しいと思っています。これまでの市民参画の取り組みなどで出てきている言葉の中で「特にこの言葉が大事ですね」というように、委員の皆さまからのご提案をいただければ良いなと思います。

2つ目は、基本構想の「4つの基本姿勢」について。本日は文言を少し変えようというご提案もいただいておりますが、ここについてもご議論をいただいて、一定、方向性は固めていきたいなと思っています。

3つ目は基本計画の「分野別目標」について。記載する文言も含めて、ご意見をいただければと思います。

それでは、皆さまからそれぞれ感じているところなどをご発言いただければと思いますが...意外に出ないですね。それでは、質問の形で大変恐縮ですが、先ほどから議論にもなっている、4つの基本姿勢の「子どもが」「子どもから」の記載について、この部分はやはり市長さんのご意見を聞きたいと思いますが、いかがでしょうか。

**市長** ありがとうございます。

内部で最終案をどうするかといった状況の中、このタイミングで出してしまい申し訳ありません。私がやはり大切にしたいのは、上村委員がおっしゃる通り「子どもが」というのが基本的なスタート地点なのだろう、ということです。

ただ、まちづくりとしては「子どもが幸せになるまち」で終わるわけにはいきませんので、順序として「まず」を入れたいと思います。「まず、子どもから幸せになります」と、音が悪いというか、みんなの共通の言葉にはならないかな、ということで「子どもの幸せから」にするのか、「子どもが幸せになるから始めます」なのか、何通りもずっと考えてきました。

我々の思いがどのような言葉にフィックスするかは、私としても「これが一番」というところまで考えられていない段階なんです。ただ、これから概ね10年先のまちづくりを考えていく中で、政策として意思決定をするときには、やはり「子どもが幸せになるんだ」ということが基本的な姿勢になると思います。あくまで「基本的な姿勢」ですから、他の3つもあわせて、我々が計画・施策をつくっていくための共通言語にしていかなければ、と思っています。

そのために、まちづくりの方向性としてぶれない表現をつくる必要があります。思いとしては「子どもがスタート」であり「主役が子ども」だということ。この2つをうまく組み合わせるようなキーワードを、皆さんと考えていけたらいいなと思っています。

本来なら、ここで一つ有力な候補を出さないといけなところ、できておりませんので、ご意見をいただければと考えています。

**会長** ありがとうございます。

市長さんの思いは、皆さんにきちんと伝わっていると思います。「子どもが」というのも大事ですし、どうしたらそれを「多くの人に共有いただける」という表現にできるか。それが改めて試されているということかもしれません。

神谷委員どうぞお願いいたします。

**神谷委員** 今流行りのChat（チャット）GPT、いわゆるオープンAIに川西市の4つの基本姿勢を入れて、文字数を指定して「要約して」など条件をつけながら試してみたところ、それらしい文章になっていてすごいなあと感じました。

これをそのまま採用するとかじゃなくても参考にはなるので、ここら辺を活用することで僕らの業務の時間とか大分短縮できますし、今まで話し合ってきたものをデータとして、このような作業をやってもいいのかな、と思いました。

**会長** ありがとうございます。

オープンAIを活用すると、なかなかそれらしいのができるようですので、ぜひ参考にしてみ

てください。

山本委員お願いします。

**山本委員** 「4つの基本姿勢」の「まず、子どもから幸せになります」ですが、主語、というところで行くと「子どもが」がシンプルかなと思いました。ただ、「まず、子どもが幸せになります」も「まず、子どもから幸せになります」も、意味はよく分かりましたが日本語としてはやはり不自然な感じはしました。先ほど市長が幾つか案をおっしゃった中で、「まず、子どもの幸せから始めます」が、私はしっくりきました。主語がないように見えるので難しいのですが、意見させていただきました。以上です。

**会長** ありがとうございます。

「まず、子どもの幸せから」が良いのではないかとのご意見をいただきました。

中野委員お願いいたします。

**中野委員** 「まず、子どもが幸せになります」とか「まず、子どもから幸せになります」という言葉だけを聞いていると、「じゃあ今が不幸せなのか」と感じてしまう文章かなと思いますし、年配者からすると「我々の番はいつ来るんだ」と。あるいは「 ”子どもの幸せ” がどこまで進んだら次の段階に進むのか」というような言葉にとらえられないかな、という危惧があります。ですから、「子ども全員が幸せなまちを目指します」とか、少し違う表現の方が、今更ですけれどもいいのかなと感じています。以上です。

**会長** ありがとうございます。

「子どもが」という表現を使うと、どうしてもそういう印象を持つ方もいるかもしれません。水野委員お願いいたします。

**水野委員** 先ほどもお話しがあったと思いますが、そもそも、この「4つの基本姿勢」は、次の総合計画が「みんなで作る」というところから始まったかと思うんですね。そうしたときに、例えば「私は」を頭につけたとすると(2)以降は全部意味が通じてきます。「私は、人に寄り添い、お互いの個性を認め合います」というように、誰が主語になっても文章が繋がるんですけども、1つ目だと「私は、まず子どもから幸せになります」というのはやっぱり、繋がらなくなってしまいます。(2)(3)(4)とでは言葉のレベルが違う印象を持ちました。

ですので、先ほど「子どもの幸せから始めます」が良いのではないかというご意見がありましたが、これだったら「私は、子どもの幸せから始めます」と置けてすっきりと繋がるので、そういう意味でいうと、みんなが主語になれて、みんながそれを考えて取り組んでいける、という意味で「子どもの幸せから始めます」がしっくりくるなと思いました。以上です。

**会長** ありがとうございます。

続けて、松浦委員お願いします。

**松浦委員** 私の意見は基本姿勢の表現についてではないのですが、総合計画について一般の方が何を知りたいかということ、総合計画を新しくすることでこれから川西市がどうなるか、ということではないかと思います。例えば、第5次総合計画を単純に10年延長したときと、第6次総合計画を新たにつくったときを比較すると何が違うのか。あるいは越田市長ではない方が市長だったときの総合計画と、越田市長のときの総合計画とでは何が違うのか、ということを知りたいのではと思います。

ちょうど今、第5次総合計画の概要版を眺めていたのですが、「子どもの健やかな育ちを実現します」「明るく楽しい子育てを支援します」と書かれていまして、第6次総合計画での「まず、子どもが幸せになります」と何が違うのか、ということを経済計画書の冒頭でしっかり示すと、市民にもその思いがより伝わるのではないかと思います。

「子どもから」なのか、「子どもが」なのかというのは、一般市民からしたらほとんど興味がないというか、関心はないと思います。

もう少し他の例をあげると、【資料2 参考資料】7ページに、川西市の現状が数値として示されています。これらの数値を、8年間の新総合計画を進めることでどういう値に持っていこうとしているか、あるいは逆にこういう数値に持っていくために「このような政策を進めます」という表現であれば、すごく納得感が出るような気がします。以上です。

**会長** ありがとうございます。

第6次総合計画が、これまでの第5次総合計画と何が違うのか。第6次総合計画における市政運営での重要なポイントを表現するためにも、計画期間後の子どもたちがどんな姿になって幸せを掴んでいるのか。将来、例えば20歳になったとき、「本当にこのまちで育ってよかった、このまちに住み続けたい」と思ってもらえるのかどうか。そんな姿を計画に書き出せると、基本構想のまちの未来像を多くの人に共感してもらえる可能性があるなど、お話を聞いていて思いました。

そのほか、いかがですか。子どもの分野に議論が集中していますが、他の分野についてもぜひ議論していただければと思います。それから、基本計画の分野別目標のところも影響が大きい重要な論点ですので、ご意見ありませんでしょうか。

どうぞ、上村委員お願いいたします。

**上村委員** 「4つの基本姿勢」に戻りますが、この部分は前々回にも(1)だけ表現が違うのではないかと、という話がありましたが、私はわざとそうしているんじゃないかと認識していました。ですので、特色としてこれでもいいのかなと。「子どもが」「子どもから」は基本的にどちらでもいいかなと思っていますが、そういう思いが詰まっている、ということがとても重要なのかなという気がしました。ほかの基本姿勢についても、これで構わないと思います。

2点目、【資料2 参考資料】の4ページですけれども、やはりこの左側の矢印が気になります。見せ方としては、計画段階ではやはり下向きにすべきで、実施段階では上向きに、というイメージを持っています。つまり実施段階は基本的に事業とか施策でもって目標を達成する、ということで下から積み上がるイメージですけれども、今は計画の策定段階なので、上から順に下ろしていくイメージでつくっているはずで、なので、実施段階の見せ方なのか、計画段

階の見せ方なのかという点を、区別しないとイケないかなと思います。

3点目は、「個別計画の年次と総合計画の年次が合わないこと」についてです。課題はその通りだと思うんですけども、合わせるような努力を今後やっていくのはどうか、というところ です。

4点目です。参考資料8ページには、今後予測される変化が記載されています。結構いろいろなものがありますが、外部要因と内部要因とに分けられますよね。外部要因というのは、市の外で起こってる話だからコントロールできませんが、内部要因は市の中で起こっていることで、市としてはコントロールしたいと思うはずで。なので、できることとできないもの、つまり外部・内部とを分けて、その上でコントロールできるものを頑張って変えていこう、という整理をした方がいいのかなと思います。

最後ですけれども、広報の在り方がとても問題なんだということを、冒頭に市長が言われまして、私もとても重要だと思っています。「まず、子どもから幸せになります」って、結構強烈なメッセージだと思うんですよね。このメッセージを今後きっちりと広報していけばいいんじゃないかと。次の総合計画は「ここが尖っているんだ」ということが重要なかなと感じました。以上です。

**会長** どうもありがとうございました。

大事なポイントをたくさんいただきました。ご指摘いただいた点も含めて、そのほかいかがでしょうか。特に、総合計画の体系として、基本的には基本構想があって基本計画が成り立ち、そこに基ついて様々な施策や事業が実行されていく。計画段階であれば、体系の順番をそのように整理をしていただければと思います。

それから、個別計画をそれぞれ具体的な施策分野ごとに出していただけていますが、これはこれで必要なことで、個別計画がこの総合計画に基ついてより具体的な事業、あるいはプロジェクトを進めていくという位置付けはこれでよいかなと思います。

また、個別計画の期間が終了し、新たな計画を策定していくときには、総合計画との整合性を図ることと、個別計画の年次と総合計画の年次が合わないことについて、できるだけ合わせる努力を行うことが重要だと思います。言い換えると、総合計画と様々な分野の計画が整合的に進んでいき、総合計画が個別計画に対して方向性を示せるような計画でなければならないと思っています。

今後の社会の変化についてのご意見もおっしゃるとおりで、内部要因のコントロールは行政でできること、できないことがあります。内部要因をさらに整理して進められるといいなと思いつながり聞いていました。

最後に、広報の問題も大きいと思います。どうすれば市民の皆さんに効果的に投げかけることができるのか。これもまた、皆さんと考えていきたいと思っています。

少し余計なことを申し上げましたが、計画の全体について、皆さんからもぜひ感じられたことをご発言いただければと思います。

どうぞ、山本委員お願いします。

**山本委員** 【資料2 参考資料】13ページですけれども、こちらは多分、前回の審議会で個別

計画がどこにどれくらいあるか分からない、と私がお伝えしていたので今回まとめていただいたのかなと思います。ありがとうございます。

それで、どこまで情報を載せるか、というところがあるんですけども、個別計画ごとの審議会などで、専門家で組織されているところもあれば、市民公募しているものもあるのかなと思います。募集のタイミングもあると思いますが、「市民が入っていけるのはここですよ」というのが一覧で分かるようになっていると、興味のあることに注目してみるきっかけになるかな、と感じました。以上です。

**会長** ありがとうございます。

計画のつくり方については、これからのご意見を踏まえてになってこようかなと思いました。そのほか、いかがでしょうか。

神谷委員お願いいたします。

**神谷委員** 【資料2 参考資料】4ページ右側の表についてですが、こういうのは、やはり広報誌とか、ホームページとかで出てくる文言なのでしょうか。そこで一切出てこないのであれば、あまり作り込んで意味がないと思うんですけども、自分が知りたい分野はどこに入っているのか、というのが少し分かりづらいなと。例えば市役所の各課の非常勤職員の方に、施策1から14を隠した状態で「自分の働いている分野はどこに含まれるか」と聞いて8割方合っていればわかりやすいだろうなと思うんですけど、これだと難しい気がするので、具体的な単語やフレーズを入れてもいいのかなと思いました。

**会長**

この「分野別の目標」については、おっしゃるとおり文字の座りがよろしくないですね。他にいかがでしょうか。

どうぞ、中野委員お願いします。

**中野委員** 基本構想・基本計画というところをずっと議論をしてきているわけですけども、市民の方が一番関心を示されるのは、基本構想や基本計画ではなくて実際にどんな施策があるのか、という具体的なところかなと思います。つまり、ある施策を見たときに、基本計画なり基本構想へのつながりがきちりと読み取れる形にしないといけないと思います。ところが今のつくりですと、第6次総合計画を発表したときに、市民の方がはたして「川西はこういう方向を向いているんだな」と本当に思ってもらえるのかなと思います。

今ある施策を単に分類するというのではなくて、実施計画の中で重点を置くものをピックアップして、基本構想、基本計画のここに関連付けていますよ、あるいは、新たにこういう施策を打って、こういう形になっていくんですよということをうまくアピールしていかないと、「お題目だけを作って、実際にやることは今までと変わりません」ということになってしまう気がします。

ですので、やはり目玉になるような施策をそれぞれ関連付けないといけないんじゃないかなと思います。以上です。



**会長** ありがとうございます。

重点的な施策やプロジェクトをどのように総合計画へ位置付けていくのか。今後はそのような議論が必要だと思います。基本計画の中で、それぞれのまちの姿を導いていくような、言わば目玉になるような施策を幾つか設定していくことになるのではないのでしょうか。同時に、設定すべき施策についても、これからご意見をいただきながら積み上げていければな、と思いながら聞いていました。

そのほか何か関連して、ご意見ありますでしょうか。

どうぞ、片山委員お願いします。

**片山委員** 関連したことではないのですが、【資料2 参考資料】17ページの「Q & A」を読み進めていて、一番最後の「あなたもまちづくりのプレイヤーです」とか、「ポイントは”みんなで”」というのを見たとき、読んだ人はハッとするとするんです。その次には「じゃあ、みんなでどうやったらできるんだろう」って方法が知りたくなると思うんですね。

その気持ちで次の18ページを読むと「総合計画のプロセス」になっていて、ちょっと目が進まないというか。具体的に自分が参加するとなったらどんな方法でできるんだろう、どんな機会があるんだろうということにもう少し注釈が入ると、17ページの「みんなで」という狙いが生きてくるのかなと思いました。

**会長** ありがとうございます。

確かに、「みんなでつくる計画です、市民の皆さんもプレイヤーです」と言っておきながら「どこで、どのようにしたらいいか」ということが一切出てこない。これはまだつくりかけだからだとは思いますが、そこはしっかりと考えないといけないですね。

この計画自体が「みんなで考えて、みんなでつくって、みんなで実現する」という、全てのプロセスに市民が入るとというのが基本の考え方ですから、当然、実際の事業の実行段階においても、市民の役割がきちんと位置付けられていないと趣旨に添わないことになると思います。これから計画を考えていく段階でも、そこは改めてどのような考え方や視点を盛り込んでいくのか、ぜひ皆さんと一緒に考えていければと思います。

上村委員お願いいたします。

**上村委員** 市民参画の話が出ていますが本当その通りで、行政だけで解決できる問題というのはもう限界があるんですね。先ほど私が申し上げた外部要因と内部要因についても、恐らく行政だけでは解決できないので、そこを市民や企業との協働でどのように解決するか、ということを示していくのはとても重要なポイントだと思います

それと、先ほど中野委員が言われたところも重要で、【資料2】10ページにある、基本姿勢と分野別の目標を各政策に落とし込んでいくマトリックスについて、実はこの部分で非常に現実的な仕分がなされていくわけですね。そこで既存の施策や事業が温存されていると、結局変化は起こっていないじゃないか、と捉えられかねません。そして、そうならないようにしないといけないわけです。

要は、上にある目標から順に落としてきて、既存の施策をどう再構築するか。ここを見える化できるか否かだと思いますが、実務的には相当きっちりやらないといけないわけですから、非常に難しい部分です。恐らく成果を目指した行革もやらないと本当に難しいんですけど、実務的にはこの部分がとても重要なと思います。以上です。

**会長** ありがとうございます。

中野委員、上村委員から関連してお話がありましたが、やはり基本構想と基本計画、この両者が体系として結びついていることを示していくためにも、基本構想の「4つの基本姿勢」が基本計画の「5つの分野別目標」にどのように関わっているのか、そして分野別目標が施策にどのように関わっているのかを示す必要があると思います。

やはり、どういう言葉でその部分を結びつけていくのかは、この5つの分野別目標の立て方、ここに関わってくるので、皆さんからもご意見をいただければと思います。

どうぞ、中野委員お願いします。

**中野委員** 市民参加という点では「市民の意見をこういう形で取り入れましたよ」ということをフィードバックしてあげることが、非常に重要なと思います。

例えば「市長と語る かわにしMeeting」で出た意見を、具体的にこんな施策につなげました、という部分をアピールすることが必要で、それによって「我々の意見を聞いてもらった」となるわけです。そういう実績を広く伝えて、皆さんにできるだけ参加意識を持ってもらう。あるいは、意見を言えば市は聞いてくれるんだ、という雰囲気をつくり出していくというような、そのあたりをうまく演出する必要があるのかなと思います。以上です。

**会長** ありがとうございます。

実際に市民の方々に関わることで、何がどのように実現されていくのか。具体的な市民参加の姿をもう少し見える化していかないと、「市民参加」が単なるお題目にしか感じてもらえないかもしれません。

計画全体の中で市民参加のプロセスをどのように組み込んでいくのか。そして、市民一人一人が参加し、達成感や充実感をどのように感じてもらえるか。そこを踏まえて考える必要があると思います。それは逆に言うと、市民参加を通じて市政運営あるいは個々の施策や事業の成果についても、よりよく改善されたり、より大きな成果が出たりする。私たちがそういう姿を見せていくことができる計画になるかに懸かってくるのだと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ、神谷委員お願いします。

**神谷委員** 片山委員や中野委員のお話と関連するのですが、【資料1】3ページは総合計画策定のための市民参画の一例ですね。策定するにあたって「市民の意見を聞く」こと自体は市民参画にはなると思うんですけども、やはり実施する中で、どうやって市民が主体となって参加していくのか、という図が見せられないと「あんなに言ったのに役所は動いてくれない」となりそうで心配しています。7ページでも皆さんがいきいきとして、赤ちゃんを抱っこ

した人やいろいろな世代の人が意見を言う、こんな形を指して市民参画というのか。それとも実施も含めて市民も一緒に参加していくところまでが市民参画なのか。ここを示した方がいいのではないかと思います。以上です。

**会長** ありがとうございました。

もちろん、市民参加をして意見を出して終わる、そのような市民がおられてもいいですし、同時に、意見したことを市と一緒に実現していく方がたくさんおられてもいいと思います。それが可能となる条件や施策をつくっていくことが、私たちの役割かもしれません。その意味では、計画づくりだけではなく、実行する際やその後に見直して新しい計画をつくる、みたいな話も含めて、市民参加のプロセスを整理しておく必要があるかもしれません。

そのほか、いかがでしょうか。ありたいまちの姿のところは、よさそうなキーワードとか何かないですか。時間がなくなってきましたけれど、思いつきでも結構ですので。

どうぞ神谷委員、お願いします。

**神谷委員** 「ありたいまちの姿」の方向性として、川西に住んでいる人たちが感じている、という点では、「自然が豊か」とか「交通の便がいい」とか、そういうのがもっとあってもいいのかなと思いました。【資料1】13ページの転出者アンケートや市民意識調査で上位に挙がっていたという部分は、もっとアピールしてもいいのかなと。「自然」など、みんなが共通して思っているワードなら挙げてもいいのかなと思いますね。

**会長** ありがとうございました。

外から見た良さ、みたいなものは中で考えると出てこないかもしれませんね。

松浦委員どうぞ。

**松浦委員** 具体的な話ではありませんが、仮に「川西の新しい総合計画ってどうなの」と誰かから聞かれたときにどう答えるか、みたいなことを考えていました。

実際に本日、私が本審議会に参加するため、会社から自宅に帰るときに似たような雑談になりました。私がどう返したかという、「多少時代に合わせた軌道修正はあるけど、基本的には、今まで通りの行政サービスとまちづくりを進めるって計画。これはまあこの自治体でも変わらないかな。ただ、今回の川西市さんは『まず、子どもから』って感じで結構踏み込んだ方針を示している部分がある。あと、川西市さんは昔から公共の役割を行政だけでなく市民や事業者と一緒に果たしていくという考えなんだけど、今回は、よりそういう部分を強く出しているかな。」という個人的見解を述べました。

例えば市長が市議会の休憩時間等に廊下で議員さんと立ち話す際、部長会の終了後に部長同士で雑談する際、「新しい総合計画ってどうなの」と聞かれたときに、どうお答えになるのか。きっと、市民の方も冊子を見るよりそういう情報を知りたいんじゃないかなと思いました。その数十秒程度で簡潔に言われたことが総合計画書の冒頭に分かりやすく示されていて、その数ページを見るだけで重要なポイントが概ね記載されている。さらには先ほど中野委員がおっしゃったことが含まれている内容であれば理想的なのではと思います。以上です。

**会長** ありがとうございます。

この計画をわかりやすく説明をする、それも立ち話程度で表現するという、とてもいい示唆をいただいたかなと思いました。

では、事務局の皆さんや市長さんはどう考えているのか少し聞いてみましょうか。

まずは、石田部長さんからよろしくお願いします。

**事務局（総合政策部長 石田）**一言で言うと、今回議論いただいたように、今まではどちらかという行政がやっていく計画だったんですけど、今回は市民や地域も入れて「みんなでつくる、取り組む計画」だよ、と。そのみんなの中には当然、我々職員一人一人も入っているよということを、メッセージとして伝えていきたいなと思います。以上です。

**会長** ありがとうございます。飯田副部長さんはいかがですか。

**事務局（総合政策部副部長 飯田）** ありがとうございます。今回もたくさんのご示唆をいただきました。先ほど部長が申し上げた「みんなで」も一つのキーワードですし、たくさんご意見をいただいております「子ども」の部分もそうです。国語的に違和感を覚えながらもあの言葉を入れた経緯や想いというのはまさしくそこにありまして、ある意味で奇をてらうような表現にしたわけでございます。

また市民参画の形についても、タウンミーティングを初めとしたいろいろな場面で意見を聞く際には「市に言ったよと、任せたよ」というものではなく、皆さんと一緒に作り上げていく、一緒に考えてほしいんだということを、市長を先頭に毎回言ってきております。

3月のかわにしミライ会議でも、これまで出たアイデアがどう実を結んでいくかいうところを議論していきますので、ご指摘いただいたところを踏まえ、しっかりと伝える、伝わるものにしていきたいなと思っております。以上です。

**会長** ありがとうございます。

部長級の2人からは、子どもへの取り組み、そして市民の皆さんとの市民参加の取り組みを通じて、まちの力を向上させていくとのお話をいただきました。

そろそろ時間がなくなってきましたが、委員の皆様方で「ありたいまちの姿」、それから基本構想の「4つの基本姿勢」、そして基本計画の「分野別目標」について、ここだけは言っておきたいということがあれば最後にお伺いして、終わりにしたいと思っておりますがいかがでしょうか。特にないでしょうか。

（「異議なし」の声あり。）

それでは私から一つ。基本計画の5つの分野別目標の文言は、考え直しましょうかね。基本構想とのつながりが見えにくいことや、施策をイメージしにくいとの議論もありますので、表現を変えましょう。まちの未来像と4つの基本姿勢にひもづくような表現で、実際の具体的な施策分野につないでいけるようなまとめ方を、少し考え直す必要があるかもしれません。基本

計画の5つの分野別目標の文言は、個別に委員の皆様方ともやりとりしながら考えていくということで事務局で検討してみてください。私も相談に乗りますので、よろしくお願いします。

それでは、本当に時間がなくなってきたのですが、やはり最後は市長さんに、ここまでの議論を踏まえて「私なら、市民の皆さんに、あるいは議員の方々に総合計画をこう説明する」というのを含めて、お話しいただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。

**市長** 本日も貴重なご意見ありがとうございました。

中野委員、松浦委員からもありました通り、この計画で、概ね10年後の川西がどうなっているのかを一言で説明する。そのことが私に課せられているのかなと思っています。

一言で十分に言語化できているのかわかりませんが、「子どもが幸せになるまちを目指す」、そのための計画です。また、「行政だけではなくて、市民と一緒にみんなで実現する計画だ」。恐らく、まとめるならそういった言葉になるのかなと思います。

加えて申し上げるならば、「子ども施策」には様々な切り口があると思います。子ども施策として支援を行う際に、今回我々も所得制限を緩和して対象を広げようとしていますので、現金給付、経済的な支援を必ずしも否定するものではありません。しかし、それをもって本当に子どもが幸せになっているまちになるとは思いません。子ども自身が幸せになることを考えるなら、子どもが本当に授業を楽しんでいるのか、居場所があるのか。8年後に、全ての子どもに幸せだと言ってもらえていることが、まちづくりとしての基本的なスタートラインだと思います。私が「主語が子どもだ」とこだわっているのは、この部分です。

ですので、総合計画の中で、この部分をまず最初に大切にしていきたい、ということを私が市民の皆さんにしっかりとお伝えして、共感していただくことが必要だと思っています。

子ども分野以外の個別計画や施策については、他の基本姿勢や分野別目標の中で方向性を示していくこととなります。中でも重点を置いている部分として、子どもの分野を挙げています。我々の中でも相当議論しましたが、やはり今日のように様々な立場からご意見をいただくことで、内部では気づかない考え方を知ることができましたし、この計画で市民の生活がどうなっているのか、あるいは川西がこう変わるんだ、というワクワク感やそれぞれの声が形になった計画にしたいと思います。

ただ、人口が減って厳しい時代になると、なかなか実現できないことの方が多くなります。要望があって全て実現できるのであれば、対話やタウンミーティングは必要じゃないと思っていますし、ツイッターのダイレクトメールで要望してくれたらかないます、という世の中になってしまいます。できないことがあるからこそ、丁寧に対話して、本質的なところをしっかりと伝えながら、協力も得て一緒に進めていくということが大切だと思います。

市長となった以上、みんなに好きと言ってほしいですが、嫌われることもやりながらしっかりと計画づくりを進めていきたいなと思います。来年度はより具体的なところに進んでいきますので、来年度もまた、どうかお力を貸していただきますようよろしくお願いいたします。

**会長** ありがとうございました。

今日は皆さんのおかげで、新しいアイデアがいろいろ出てきたように思います。これを事務局で整理し、大変かもしれませんがさらにブラッシュアップしていただきたいと思います。

今年度、ここまで本当に充実した議論をさせていただいた市長さんはじめ、市の皆さんに感謝を申し上げまして終わりにしたいと思います。そして来年度は、本日示していただきました総合計画の枠組みに従ってさらに充実させつつ、総合計画づくりに向かっていければと思います。今日はどうもありがとうございました。

それでは、事務局にお返しさせていただきます。

**事務局** 本日議論いただきました内容については、皆様方からのご意見を踏まえて修正し、今後、新川会長にご確認いただいた上で、引き続き次回の審議資料とさせていただきたいと思えます。また、議事録につきましても皆様に後日ご確認いただきたいと思いますと考えております。

令和4年度の総合計画審議会は本日をもって最終となり、令和5年度につきましては、現時点で4月か5月頃の開催を予定しておりますけれども、詳細につきましてはまた別途、事務局よりメールにてご案内いたします。

それでは以上をもちまして、令和4年度第4回総合計画審議会を終了いたします。

ありがとうございました。

【終了時間：午後8時58分】